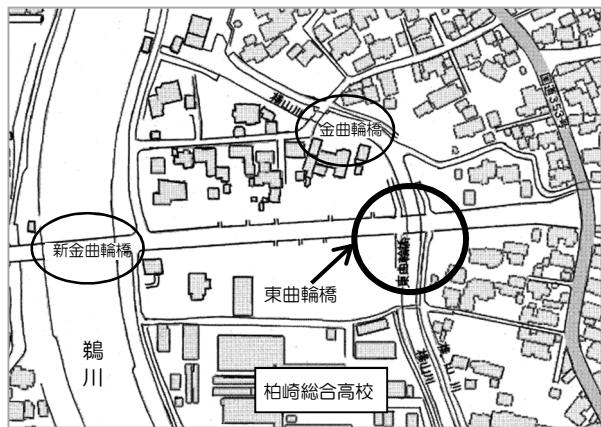


「柏崎の橋」

65 東曲輪橋

東曲輪橋は、城東一丁目と宮場町の境にある。この橋は柏崎総合高校の脇を走る市道柏崎6-1号線の一部であり、鶴川の支流横山川に架かる。長さ16m、幅11mのコンクリート製で、平成18年2月に新設された。



東曲輪橋周辺図(柏崎市GISベースマップより)

「くるわ曲輪」とは城の石垣・堀などの囲み、またはそれで囲まれた一つの区画をさす。柏崎総合高校の敷地には、かつて宇佐美氏の居城であった琵琶嶋城があり、橋が架かる辺りは二の丸で「福島」または「東曲輪」と呼ばれていた。

付近には他にも琵琶嶋城に由来する「金曲輪橋」「新金曲輪橋」(ソフィアだより180号に掲載)も架かっており、新しい橋が「東曲輪橋」と名付けられたのは、この地域の歴史を考えれば必然と言えるだろう。

市道6-1号線は、剣野町から新金曲輪橋と東曲輪橋を通り国道353号へ向かう、剣野地区に

とって川の東側と結ぶ重要な生活道路である。この市道ができるまで、宮場町地内の住宅地を縫うように走る市道が使われていたが、この道は幅が狭くクランクやカーブがあり、交通事故の心配が絶えなかったという。

平成20年1月9日、市道6-1号線供用開始の際の開通式では、市長、柏崎警察署交通課長、施工業者らがテープカットを行った。時折強風が吹き、雨が降る悪天候の中、参加した地区の人々は東曲輪橋と国道の間の歩き初めを行い、待望の市道開通を祝った。

現在この橋は、地域の住民だけでなく柏崎総合高校の生徒の通学に利用され、多くの自動車や自転車が行き交っている。



現在の東曲輪橋
国道353号側から新金曲輪橋方面を望む

●参考資料

- 『柏崎編年史』(224 シン) 新沢佳大 編著
柏崎日報 平成20年1月7日2面
柏崎日報 平成20年1月10日2面